

平成 18 年度

ライフスタイルプランナー北欧研修報告書

日程：2006 年 8 月 6 日（日）～8 月 14 日（月）

2006 年 9 月

輸入住宅産業協議会

1. 実施概要

- 企画・主催 : 輸入住宅産業協議会
- 旅行主催 : (株)JTB 法人東京 第三事業部
- 実施期間 : 2006年8月6日(日)～8月14日(月) 9日間
- 訪問地 : スtockホルム、コペンハーゲン、ロンドン
- 団員数 : 23名 (IHIO 随員を含む)
- 団長 : 町田ひろ子(株式会社町田ひろ子アカデミー代表取締役)
IHIO 副会長、ライフスタイル委員長としてカナダ・英国のライフスタイル研修を数年に渡り引率し、今年は北欧の高齢者住宅と一般住宅の最新情報とそのライフスタイルを研修指導企画する。
- 副団長 : 越智 正博(東急ホーム株式会社専務取締役)
IHIO 副会長として、今回の研修団をまとめ、住宅関連の市場調査をかねて北欧の住宅のライフスタイルを研修指導する。

2. ライフスタイルプランナー北欧研修参加者メンバーリスト(個人情報により削除)

3. ライフスタイルプランナー北欧研修旅行日程

日次	月日(曜)	地名	現地時間	交通機関	スケジュール	食事
1	8月6日 (日)	東京(成田)発 ロンドン着 ロンドン発 ストックホルム着	13:10 17:15 20:00 23:25	BA008 BA786	途中、ヨーロッパ内乗継 ホテルへ(アシスタント同行) ＜ストックホルム泊＞	昼: 機内 夜: ×
2	8月7日 (月)	ストックホルム	終日	専用車	終日研修 ガイド(S.M.氏) 市内一般住宅視察 65歳以上高齢者住宅の視察、総合高齢者住宅見学(昼食) 新興住宅地の開発地域視察、コレクティブハウス見学等 ＜ストックホルム泊＞	朝: ○ 昼: × 夜: ×
3	8月8日	ストックホルム ストックホルム発	午前 16:10	専用車 SK409	午前研修 ガイド(S.M.氏) スtockホルム見学: 住宅展示場見学、新興住宅地の開発地域視察等 ＜午後 SWH 別行動＞	朝: ○

	(火)	コペンハーゲン 着	17:20	専用車	ホテルへ（アシスタント同行） ＜コペンハーゲン泊＞	昼： × 夜： ×
4	8月9日 (水)	コペンハーゲン	終日	専用車	終日研修 ガイド（T.Y氏） 市内見学、北ジールランド城見学等、 ＜コペンハーゲン泊＞	朝： ○ 昼： × 夜： ×
5	8月10日 (木)	コペンハーゲン	終日	専用車	終日研修 ガイド（T.Y氏） 市内一般住宅視察：デンマーク家具工房視察 伝統・近代デンマークデザイン及び建築の見学 《SWH 合流》 ＜コペンハーゲン泊＞	朝： ○ 昼： × 夜： ×
6	8月11日 (金)	コペンハーゲン コペンハーゲン 発 ロンドン着	朝 7:50 9:05	専用車 BA811 専用車	空港へ ホテルへ（アシスタント同行） 着後、ロンドン市内観光。希望者は自由行動。 ＜ロンドン泊＞	朝： ○ 昼： × 夜： ×
7	8月12日 (土)	ロンドン	終日	専用車	終日研修 ガイド付き ロンドン郊外見学：レッチワース見学、 ロンドン市内建築物見学、William Morris Gallery、 Kelmscott House 見学等 ＜ロンドン泊＞	朝： ○ 昼： × 夜： ×
8	8月13日 (日)	ロンドン ロンドン発	早朝 13:50	専用車 BA005	空港へ ＜機内泊＞	朝： ○ 昼： × 夜： 機内
9	8月14日 (月)	東京(成田)着	9:10		着後、解散。 お疲れ様でした。	朝： 機内

ご注意：発着時間、交通機関等に変更になる場合がございます。

利用航空会社 BA: フリテイッシュ・エアウェイズ SK: スカンジナビア航空

利用予定ホテル

ストックホルム: CLARION HOTEL STOCKHOLM tel: +46-8-462-1000

コペンハーゲン: COPENHAGEN ISLAND tel: +45-3338-9600

ロンドン: HILTON LONDON KENSINGTON tel: +44-20-76033355

4. 活動報告

1) ライフスタイルプランナー北欧研修日程計画

8月7日 (月)	ストックホルム滞在	終日	専用車	午前9時より17時まで、 市内一般住宅視察 +65歳高齢者住宅の視察、総合高齢者住宅見学(昼食) 新興住宅地の開発地域視察、コレクティブハウス見学等 (ストックホルム泊) [朝・×・×]
8月8日 (火)	ストックホルム発 コペンハーゲン着	午前 夕刻	専用車	午前中9時より14時までストックホルム見学 住宅展示場見学、新興住宅地の開発地域視察等 午後空路コペンハーゲンへ <SWH別行動> (コペンハーゲン泊) [朝・×・×]
8月9日 (水)	コペンハーゲン滞在	終日	専用車	午前9時より17時まで <SWH別行動> 市内見学、北ジールランド城見学等、 (コペンハーゲン泊) [朝・×・×]
8月10日 (木)	コペンハーゲン滞在	終日	専用車	午前9時より17時まで、 市内一般住宅視察 、 デンマーク furniture 視察 <SWH別行動> 伝統・近代デンマークデザイン及び建築の見学 <SWHと合流> (コペンハーゲン泊) [朝・×・×]
8月11日 (金)	コペンハーゲン発 ロンドン着	午前 午後	専用車	午前、 空路ロンドンへ 午後、ロンドン着 着後、ロンドン市内観光。希望者は自由行動。 (ロンドン泊) [朝・×・×]
8月12日 (土)	ロンドン滞在	終日	専用車	午前9時より17時まで ロンドン郊外見学: レッチワース見学、ロンドン市内建築物 見学、William Morris Gallery、Kelmscott House 見学等 (ロンドン泊) [朝・×・×]

2) ライフスタイルプランナー北欧研修訪問の実施報告

スウェーデン訪問

期日	時間	視察内容等
8月6日 (日)	13:10 Tokyo - London 17:15 BA 008 20:00 London - 23:25 Arlanda BA 786	Hotel: CLARION HOTEL STOCKHOLM Ringvägen 98, Box 20025 104 60 Stockholm. Tel: 08-4621000 Fax: 08-4621099
8月7日 (月)	09:00 Hotel 集合 - 出発	高齢者住宅: Solna:

	09:30 Kollektivhus Färdknäppen 11:00 Brf Kranen Äldreboende 12:00 Lunch 13:00 Hallen 18:00 Clarion Hotel Stockholm. 19:00 Restaurnag. Fem små Hus Gst.	Brf Kranen Äldreboende Oskarsrogatan 7 171 53 Solna K. Björkestrand Pk:1756 Kollektivhus Färdknäppen Fatbursgatan 29 A 118 54 Stockholm. 高齡者総合施設 Hallen Lövsgatan 43-45 169 32 Solna Restaurang Fem små hus Nygänd 10 111 30 Stockholm
8月8日 (火)	09:00 Hotel 集合ー出発 12:00 Lunch 13:30 To Arlanda 16:10 To London SK 409	JM informationen HelenNomqvist Hammarby Sjöstad Sjöstadshamnen Hus Expo AB Bogårdsgatan 17 128 62 Sköndal M-Tor 10:00 – 18:00

コーディネーター S.M 氏

—視察1日目— (8月7日)

■ 65歳以上の高齢者住宅視察—Solna—

スウェーデンの高齢者（定年65歳）住宅、65歳以上の高齢者の夫婦または、独身者対象の健常者向けアパートの視察を行った。

最初に訪問したコレクティブハウスは、まさに高齢者住宅とは呼んで欲しくない共同生活の意義を感じさせる住み手側の立場に立った建物の間取りとソフト（運営システム：日本のコレクティブハウスのモデル）であった。

建物は、1DKをはじめ47世帯があり、なにかの行事をしたり、ダンスをしたりする部屋である共同のホール、植木などの作業室、図書室、共同図書室など、自分の趣味などを発揮できる設備が充実したものであった。2件目の高齢者アパートは、元気な老夫婦がアパート全体とご自分の部屋を案内してくれた。全ての住民がインテリアの

素養を持ち、その表現方法の素晴らしさに感銘した。



■ 総合高齢者住宅—Hallen—

この建物には、認知症高齢者のグループホーム、デイケアセンター、デイセンター、レストラン、時にはリハビリ室などがある総合施設の視察で、スウェーデンの財政面でゆとりがある時期に建設されたため、至れり尽くせりの施設であった。

昼食は、高齢者施設の食事体験という意味で、施設内のレストランで行った。ここのレストランの食事は、施設内のみでなく、地域内の高齢者の自宅にも配膳されているもので、比較的日本人の舌にも合うものであった。

■ 新興住宅地

昔の港湾作業場を、新興住宅地に開発した場所の視察で、この住宅地のために、わざわざ路面電車も開通している。都市計画に基づき建物外観設備等と環境が見事に調和した住宅地で都市計画の重要性を感じた。

また、昔の軍隊訓練所が、国に変換されて、その土地の跡を新興住宅地として開発された地域の視察を行った。土壌を入れ替えたり、インフラ整備に費用が多く掛かったそうだが、計画に基づきどんな場所でも再生する考え方を見習いたい。



—視察2日目—（8月8日）

■ 住宅展示場—Hus Expo AB—

のどかな郊外にその展示場はあり、住宅を充分楽しみながら見学できる環境であった。日本の展示場との建物の違いと住まいの考え方の違いを列举すると、①まず価格が安価（別添の住宅は日本の1/5程度）であるため、平均的な国民（共稼ぎが多い）に買える建物であること。②顧客に選ばせる展示場であること。③オプション等が少なく展示物（ビルトインキッチン設備等含む）そのままの価格で買える事。④土地付き建物の販売も行ってた。但し日本と比べると仕上げや施工が非常に雑であり、建築基準等で日本では通用しないと考えられるが、価格面と価格そのままの住宅を売るという考え方は見習いたい。ちなみに展示場の入場料は50SKr（約750円）であり、建築予定者の打合わせの為の年間入場料というものもあった。火曜日の午前中であったが現地の人が20～30名位入場していたようである。

デンマーク訪問

期日	時間	視察内容等
8月8日（火）	17:00 SK409 18:00 Stockholm – 17:00 ピーターズハウストラ ～23:30 ホテル	KASTRUP空港出迎え Copenhagen Island HOTEL 電車—中央駅—TAX—デンマークレストラン 人魚～サルフィン～NYHAN～ホテル
8月9日（水）	09:00 Hotel 集合—出発 Gund 教会（グルンドヴィ教会） Vaesv 教会（バウスヴェア教会） Fredensborg 宮殿。 Elsinore の Kronborg 城 ルイジアナミュージアム	シンプル（伝統建築）の教会 シンプルモダン（最新）の教会 建築家ヨーン・ウッツオン作 詳細後記 詳細後記 テーマパークといっても良いくらい内容が盛りだくさんのミュージアム

	AJ. ヤコブセンの集合住宅視察	一見の価値あり
8月10日(木)	09:00 Hotel 集合→出発 PPモービラ社視察 フリントツ・ハンセン社は 12:00 Lunch 15:00 コペンハーゲン KASTRUP 国際 空港 16:00 伝統・近代デンマークデザインの 展示場 Belle Center	ここにしかないという匠の世界の家具製作工場視察。 マスプロでロボット化の進んだ新工場とショールーム及び本社を視察した。 スウェーデンハウス組みと合流 デンマーク家具の常設、ファッションのイベントの視察。

コーディネーター T.Y.氏

コペンハーゲン、および周辺の視察

—訪問1日目— (8月8日夕方以降)

■コペンハーゲン市内散策:

コペンハーゲンの名所は、徒歩、電車、あるいはバスによって容易にアクセス可能なエリアで便利につながっています。歩行者専用の通りは、約900年前に、都市の中心部につながる小道として形づくられました。古い世紀の建築物をもつStroegget、泉、ビジーショップ、クライム・クリスチャンIV世を通して、17世紀のこの都市を観ることが出来ます。Rosenborg城、Borsen、株取引所であるChristiansborg城、デンマークの議会、Amalienborg城のそばを通り過ぎて、人魚姫を見物した。

—訪問2日目— (8月9日)

■グルンドヴィ教会

設計: ペーター ウィルヘルム、イエンセント クリント 1920~40年

市中心部から北に向い、バスで20~30分程で行けるこの教会は、レンガ建築の伝統に根を下ろした、デンマークの村の教会をほうふつさせる建物であった。



■ バウスヴェア教会

シドニー・オペラハウスのデザインで有名なヨーン・ウッツォンの手になる教会。1977年当時のウッツォンの結構のヴィジョンの理想形。一方で北欧ゴシック・リヴァイヴァルの延長とも見なされ、他方その断面形はパゴダ形へ。のウッツォンの嗜好から導かれたものである。(葛飾北斎 富嶽三十六景)



■ 北ジールランド城ツアー

コペンハーゲンを離れ、北岸に沿って対岸はスウェーデンを見ながら絵のような北ジールランドのツアー。Kronborg 城に行き、中庭を訪れて築城を散策した。Fredensborg 城の周辺を歩いて、小さい村、美しい農村を楽しんだ。

■ Fredensborg 宮殿。

北ジールランドの Esrum 湖の Fredensborg 宮殿は、デンマークの宮殿の中で特別のステータスが楽しめます。それは、王家によって最も好意を示された邸宅です。美しい18世紀のバロック式宮殿は、主要な公式行事、および王族イベントがしばしば催されます。

宮殿庭によって囲まれた **Frederiksborg** 宮殿は、城湖の3つの小島で **Hillerod** の中間に位置します。この宮殿は、17世紀にクリスチャン4世によって建てられたオランダのルネッサンス・スタイルです。250年後の破壊的な火災の後、もう一人のデンマークの花形・醸造家 **J. C.ジャコブセン** によって、極めて正確な復元で再建されました。この宮殿は、デンマーク国家の歴史美術館で、ポートレイトの重要なコレクション、およびモダンアート等、歴史的な絵画を見学した。



■ Elsinore の Kronborg 城

海の入江にある **Elsinore** の **Kronborg** 城は、北ヨーロッパの最も重要なルネッサンス城の1つです。それは、世界中でシェイクスピアのハムレットで知られているデンマークの最も有名な城です。そこにはデンマークや海外から毎年200,000人の観光客がこの城を訪れます。

2000年11月30日に、**Kronborg** 城は、**UNESCO** の世界遺産リストに加わりました。**Frederik 2世**の **Kronborg** 城は、上品なルネッサンス城であると同時に、記念の軍事的要塞であり、解放できるパワフルな築城によって取り囲まれています。

いくつかの歴史的な空間は、住宅省、および都市のルネッサンスおよびバロック様式のインテリアコレクションを収容しています。最も重要なアトラクションの中には、巨大なボール空間、礼拝堂、および **Holger Danske** があります。(別添集合写真参照)

■ 伝統・近代デンマークデザイン及び建築の見学

ルイジアナミュージアムにて伝統・近代デンマークデザイン及び建築の見学。

ルイジアナミュージアムでは、近代家具を代表するポール・カジャルホルム (**POUL KJAERHOLM**) 展が開催されていた。広大な敷地ではあったが、会場内の回廊は、時間を忘れるほどのしつらえや感銘する展示物を見ることが出来た。

■ AJ.ヤコブセンの集合住宅視察

バスの運転手に無理を言って一般道に駐車し AJ.ヤコブセンの集合住宅視察を行った。
必見の価値あるシンプルな建物であった。



訪問 3 日目ー (8 月 10 日)

■ デンマーク furniture 視察

デンマークの家具のデザインをテーマにし、工房視察等を行った。

PPモービラはここにしかないという匠の世界 (ハンス.j.ウェグナー デザイン) の家具
製作工場、フリッツ・ハンセン社はマスプロでロボット化の進んだ新工場とショールーム及び本社を視察した。両極端な製作工場を見て……………

PPモービラ社視察



フリッツハンセン社工場内視察



■ 伝統・近代デンマークデザイン及び建築の見学

コペンハーゲンKASTRUP国際空港にてスウェーデン組みと合流。

その後、伝統・近代デンマークデザインの展示場 Belle Centerにてパーコネット家具等を視察した。

* 10日9時10分に別行動組みの副団長より連絡があり

英国でのアルカイダ系のテロの情報を得る。9時15分、日本のJTBに連絡、詳しい情報を調査するよう依頼。9時30分にJTB小宮山氏より外務省からは英国への渡航禁止の措置はないことを聞く。詳細を町田団長に報告し、このままの計画で英国に行くことを決断する。ここでデンマーク出国と英国入国問題への対応を考えJTBへアシスタントの派遣を要請する。

英国訪問

—英国1日目— (8月11日午後以降)

■ ロンドン市内散策 (自由行動も可)

ミレニアムを記念して建てられた、ノーマン・フォスターやリチャード・ロジャースによる近代的建築物、バービカン地域の保存コンクリート建築 (イギリスではコンクリート建築は醜い価値なき物とみなされがちだが、この地域のものはその歴史的意義から例外的に保存されているとの事。)

外壁にテラコッタを使用した、大英帝国時代の装飾的建築物として残る、ラッセルホテル、最近若者に人気の市場のあるカムデン・タウン等々をバスで廻り、コンラン・ショップや近隣のインテリア・ショップ等を自由散策した。



—英国 2 日目— (8 月 12 日)

■ リッチワース見学

リッチワース・ガーデン・シティー

田園調布のモデルとなった都市開発として、日本でも知られている。

1900 年ごろ、ハワード卿の「田園都市生活構想」に基づき、レイモンド・アーウィングにより設計、開発された。このアーウィングもまた、モリスの思想の影響を受けた一人である。

19 世紀後半のイギリスは、産業革命以降の工業化により、空気汚染・都市汚染がひどく、公害問題も深刻であった。Smog (スモッグ) は、当時英国でできた、smoke(煙)と fog (霧) との合成語である。この反省から、自給自足的田園生活 (現在で言うなら「環境共生」に近いイメージか?) が提唱された。

多層階級の混合居住という観点も考慮されており、低層共同住宅、長屋建、2 戸一、戸建住宅等さまざまなタイプの住宅が混在するが、全てに共通するのは各戸に必ず相当広い庭(菜園)があること。また共有地の緑も豊富にとっていて、その豊かさは日本の田園調布などとは比べものにならない。現在居住者 30,000 人。ちなみに、住居の価格帯も中級程度と言う事。100 年前にこのようなまちづくりが実施されたことに驚嘆した。



■ ロンドン市内建築物見学、William Morris Gallery、Kelmscott House 見学等

ウィリアム・モリス博物館

デザイナー/工芸家として優れたアーティストであるばかりでなく、詩人でもあり、また、急進的な社会主義論者でもあったモリス。特にその活動は、産業革命によるマスプロダクションと経済合理主義に反旗を翻し、自然に題材を得た手作りの芸術/工芸を提唱・実行した、「アーツ&クラフト運動」として知られている。

そのモリスの足跡を辿る事も、今回の研修目的のひとつである。このロンドン郊外の博物館はモリスが青少年期を過ごした邸宅だが、この後訪問する、「モリス・ソサイエティー」「ケルムスコット・マナー」等、全てにモリスの自然をモチーフとした、装飾的ではありながら華美に走り過ぎない芸術性にあふれた作品があふれている。特に、銀色に輝く柳の葉をモチーフにした作品群が印象的であった。



ウィリアム・モリス・ソサイエティー

ここは、モリスが一時ロンドンでの芸術/社会活動の拠点とした建物で、数々の出版物を印刷した印刷機や活版等が保存されている。また、2階の集会室は、当時のマルクス共産主義に傾倒する急進派の結集の場であり、ここで議論を重ねたであろう錚々たる面々の写真がずらりと並んでいる。一生懸命ガイドをしていただいたボランティア職員に感謝したい。

ビクトリア&アルバート博物館

英国及び世界の芸術/工芸品を、歴史を追って展示している、広大な博物館。じっくり見れば丸一日はゆうにかかるが、残念ながら駆け足でさわりのみ。その展示の仕方、照明の使いが素晴らしい。モノを美しく見せるだけでなく、教育的効果も抜群。一日子供をつれてブラブラすれば、いつの間にか歴史も学び美的感覚も養われると言うもの。

特筆すべきは、あちらこちらに何気なく折りたたみ椅子がぶら下がっており、どこでも座

ってゆっくり鑑賞できるようになっている点。鑑賞のみならず、学生がスケッチの練習をするための設備（学生が数十人で実習中）があったり、子供が昔のドレスを試着できるようになっていたり、要は、市民のための体験型博物館である。このようなコンセプトの博物館が日本にも求められていると痛感した。

ミュージカル鑑賞等ロンドン市内自由散策

参加者各自がロンドン市内を自由に色々見て廻ったようであった。これを機会にロンドン訪問が一人一人の知識の糧になれば幸いである。



8月7日

スウェーデン・コレクティブハウス「SOLNA」の前で